

①掛合地区の現状 - 人口・拠点施設

- 担い手組織

人口：1,498人
(2018年住民基本台帳)
高齢化率：39.79% (〃)

拠点施設：掛合交流センター
商店：あり
学校：あり
郵便局等の公共施設：あり
雲南市中心部への距離：
約20分(自動車)

掛合自治振興会

- ・平成30年度、役員・事務局体制を一新
- ・地区計画の更新時期を迎えている
- ・6つの専門部会のほか、有志による任意団体も活動している
- ・今回の地区計画更新を機に、自主組織の活動の総合的な見直しを検討したいと考えている

②掛合地区の課題

□新たな地区計画に、住民の想いをどう取り込むかがテーマ。

□人口も多く「他人事」になりがちな地域づくりに、どう住民を巻き込むかも、合わせて検討

③支援状況

自治振興会運営委員会への参加・助言 有志団体の定例会への参加・助言

- ・地区計画策定を担う「自治振興会運営委員会」への参加・助言を中心に支援活動を推進

全住民アンケート(中学生以上)作成支援、 集計・分析

住民アンケート結果を基にした 次期地区計画策定への支援

- ・平成30年度中には、アンケート結果の分析をもとに、地区計画の骨格の検討支援を行った

④成果見込み

全住民アンケート実施：

- ・地区計画への「住民の思い」の把握
→実施機関である自治振興会の結果予想と、住民の希望との違いが判明(定住促進への希望が高い)
- ・地域づくりへの意識付け(住民一人一人がアンケートに回答する事で、自治振興会の取り組みへの意識喚起)

次年度活動の指針：

- ・長期の計画策定はこれからだが、各専門部会ごとにアンケート結果を活かした次年度の活動を計画(直近の単年度事業への反映)

有志団体の活動のふりかえり出版物発行：

- ・自主組織と関わって活動する有志団体「チームこうき」が、過去7年の活動を振り返り、住民に広報するパンフレットを発行・配布

⑤残る課題

(1) 実現性のある地区計画策定

- ・長期計画としての地区計画を、平成31年度に本格検討

(2) 依然として、住民にとっての 「他人事」の懸念

- ・現在は住民の参加意識が低いため、地区計画の更新を機に、参加意識をどう高めていくかが課題

乗り越えるには？

実現性のある地区計画にするためには、各専門部会の強みをうまく地区計画へ反映させ、長期的な観点で、一つずつステップを踏んで活動をレベルアップさせていくことが重要。

また、住民が「他人事」と思わないように、新しい地区計画を積極的に広報し、住民の関心と理解を高めていくことが重要になる。

総括

- ◆掛合地区は「田舎の中の都会」的な側面を持つため、住民の参加意識をどう高めていくかが、自主組織活動の大きなテーマ。